



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

## 知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3967号 2017.10.19 発行

### 衆院選 教育や子育て支援など社会保障の在り方で論戦

NHK ニュース 2017年10月19日

衆議院選挙は投票日まであと3日となり、各党は教育にかかる負担の軽減など子育て支援への取り組みや医療や介護の充実といった社会保障の在り方についても、活発な論戦を展開しています。

このうち、自民党は少子高齢化社会に対応するため、国民の多くが不安に感じている子育てや介護の問題を解決することが不可欠だとして、子育て世代への投資を集中し、「全世代型社会保障」に大きくかじを切るとしています。

そして、2020年度までに3歳から5歳までのすべての子どもの幼稚園や保育園の費用を無償化するほか、2020年代の初頭までに50万人分の介護の受け皿を整備するなどとしています。

希望の党は少子化対策として、保育園や幼稚園を無料化し、返済不要の奨学金を増やすなどとしています。

また、医療や介護などの自己負担の合計額に上限を設ける「総合合算制度」や、低所得層の可処分所得を増やすため、基礎年金や生活保護などに代わって、最低限の所得を保障する「ベーシックインカム」制度の導入を検討するなどとしています。

公明党は人口減少や少子高齢化に対応するためには、人への投資が重要だとして、2019年までに0歳から5歳までの幼児教育の無償化や私立高校に通う年収590万円未満の世帯の生徒の授業料を実質無償化することを目指すなど、教育負担の軽減に取り組むとしています。

共産党は格差と貧困を是正するため、国民健康保険料や医療費の窓口負担を引き下げるとともに、介護報酬を引き上げて介護や福祉労働者の処遇を改善するとしているほか、幼児教育と保育の無償化を待機児童の解消とともに進めていくなどとしています。

立憲民主党は保育士や介護職員などの給与を引き上げることなどで実質賃金を上昇させ、中間層を再生するとし、医療や介護の自己負担の軽減や、赤字の中小企業や小規模零細事業者に対する社会保険料の負担の減免などを打ち出しています。

日本維新の会は教育の無償化や子どもの数が多いほど税負担が軽減される制度の導入に加え、所得に応じて医療費の自己負担割合に差を設けるほか、高齢者の雇用を創出したうえで年金支給の開始年齢を段階的に引き上げるなどとしています。

社民党は教育の無償化を進めるとともに、将来的に「最低保障年金」制度をつくらせようとしているほか、医療や生活支援などで谷間のない「地域包括ケアシステム」を実現するなどとしています。

日本のところは消費税の一部を政府が積み立て、将来年金を受け取る際に還付する「消費税マイレージ制度」を導入し、老後の安心につなげるとしています。

指導きっかけに命絶つ「指導死」、暴力伴わない事例大半 峯俊一平

朝日新聞 2017年10月18日

福井県池田町で3月、中学2年生の男子生徒が自殺した問題で、町教委の調査委員会は「教師による厳しい叱責（しっせき）」が原因だったと指摘した。学校での指導をきっかけに子どもが命を絶ってしまう「指導死」はこれまで見過ごされることも多かったが、認識が次第に広まっている。

『指導死』親の会」代表世話人の大貫隆志さん（60）＝東京＝は池田町教委が依頼した有識者の調査について「生徒指導をはっきりと、自殺の原因と指摘したのは画期的だ」と評価する。報告書は、男子生徒が担任や副担任から再三叱られ、「死にたい」と漏らしたことや過呼吸を訴えたことを取り上げ、目撃した生徒が「（聞いた人が）身震いするくらい怒られていた。かわいそうだった」と感じていた実態を明らかにした。

大貫さんも17年前、中2だった次男の陵平さんを亡くした。陵平さんは学校で菓子を食べたことをきっかけに、約90分間にわたって教師から叱られた後に自ら命を絶った。大貫さんは学校側に調査を求めたが、「自殺と学校は関係ない」と拒否された。

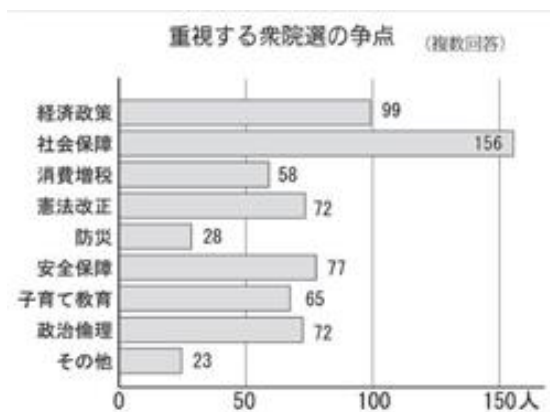
対応に不満を抱いたことをきっかけに、2008年に親の会を立ち上げた。「指導死」という言葉を考えだし、同じような境遇の遺族約20人と一緒にシンポジウムを開いたり、相談を受けたりしている。

文部科学省の調査では、07～15年度に「教職員との関係で悩み自殺した」と学校から報告があった児童・生徒は10人。ただ、大貫さんと共に活動する教育評論家の武田さち子さん（59）が新聞などから「指導死の疑い」も含めて調べたところ、同じ時期に26人が亡くなっていた。

武田さんは「表面化していない指導死も数多くある。教員は普段の仕事の忙しさに追われ、ストレスがたまって感情をコントロール出来ないこともある。長時間の激しい叱責は虐待だが、学校では『指導』と正当化されやすい」と話す。

## 社会保障政策を重視 - アベノミクス厳しい評価／本社世論調査

奈良新聞 2017年10月18日



(複数回答)を電話で尋ねた。

22日の投開票に向けて激戦が繰り広げられている衆院選で、奈良新聞社が実施した世論調査によると県内の有権者は年金、医療、介護といった社会保障の政策に最も関心を寄せていることが分かった。また安倍政権5年間の柱でもある経済政策「アベノミクス」に関しては厳しい評価を下し、景気好転の成果が多く、県民に実感できていない現状を浮き彫りにした。

調査は13～15日に実施。県内の有権者を対象に、論議となっている政策課題についての判断・評価や、投票に際して重視する課題

## 認知症の客への対応解説 医師ら金融機関向け手引 共同通信 2017年10月18日

認知症などのために判断力が低下した高齢の顧客に金融機関がどう対応したらよいかをまとめた手引「実践！認知症の人にやさしい金融ガイド」（クリエイツかもがわ、1728円）が出版された。

「通帳を盗まれた」と高齢者が何度も訴えてくる、本人の意思確認ができないのに他人が高額の現金を引き出そうとしている—など、金融機関が直面することがある困り事を集め、

対応のポイントを解説した。

監修は、認知症の当事者の財産管理や、意思決定を支援する仕組みを研究している組織「意思決定支援機構」。医学や福祉、法律の専門家や行政、銀行などの企業が参加しており、それぞれの専門知識を生かして手引を作成した。金融機関の従業員だけでなく、認知症の人の家族や支援者も参考にできる内容だ。

手引はB5判104ページ。5章に分かれており、認知症特有の症状や個人情報保護に関する注意点、本人の不安を和らげる接し方などを解説。事態が深刻になる前に対応することがポイントだとしている。

掲載した対応例としては、通帳の再発行を求めて頻繁に来店する人には ①本人の話を丁寧に聞き、まず信頼関係を築く ②同意を得て家族へ連絡—といった方針を店舗全体で共有し、必要に応じて地域包括支援センターなど公的支援窓口への相談が望ましいとした。

生活保護を受ける1人暮らしの高齢者の口座から親族が金を引き出し、本人が生活に困窮している様子が見て取れる場合は、経済的虐待が疑われるとして、支援窓口への速やかな連絡を促している。



## 災害時など障がい者支援拠点 整備を検討

長野日報 2017年10月19日

地域生活支援拠点整備について取り組み状況が報告された会合



諏訪地域障がい福祉自立支援協議会（原田正男会長）は、災害や急病時に障がい者の相談支援などを担う地域生活支援拠点整備の検討を進めている。優先して対応が必要な人は圏域で約100人と想定。対応可能な圏域8施設と1病院で短期の受け入れなどを担う方針で、2018年4月の始動を目指している。

18日に諏訪市総合福祉センターで開いた協議会の全体会議で取り組みの現状が報告された。

12年成立の障害者総合支援法に基づく第4期県障害福祉計画（15～17年度）では、県内10広域圏単位で地域生活支援の体制を整備することを定めており、すでに北信と上小は始動している。諏訪圏域では同協議会が16年7月から取り組みを開始。先進地域の関係者を招いた勉強会を開き、対象者のリストアップなどをした。

諏訪地域では新たな拠点施設を整備するのではなく、既存の事業所が連携して対応。諏訪圏域障がい者総合支援センター「オアシス」（諏訪市）内の同協議会が事務局を担い、全体を調整するコーディネーターを置く。運営費は市町村が負担することを検討している。全体会議で担当者は「災害や急病時の相談支援や避難場所の確保など仕組みづくりが必要」と述べた。

この日の全体会議には事業所や行政の担当者ら60人余りが出席し、運営委員会や各専門部会が今年度の活動を報告。障がい者に関わる相談が増えており、「相談員が不足している」といった声が上がった。重症心身障がい者の対応強化へ現在のワーキンググループから専門部会に組織を格上げして対応すべきとの提案が出た。

## 地方分権改革など推進を 高崎で10都県参加、関東地方知事会議



東京新聞 2017年10月19日  
国への提案や要望を協議した関東地方知事会議＝高崎市内のホテルで

十都県が参加する「関東地方知事会議」（会長・大沢正明群馬県知事）が十八日、高崎市内のホテルで開かれ、地方分権改革の推進など国への要望・提案十一項目を承認した。二〇二〇年の東京五輪・パラリンピックに向けて関東の各都県が連携して各地の文化情報の発信やPRに取り組むことも確認した。

会合では、東京五輪・パラリンピックなどを念頭に、増加が見込まれる訪日外国人旅行者の受け入れ環境整備の充実について、神奈川県黒岩祐治知事から提案と説明があり、参加者から賛同を得た。具体的には国の補助拡大のほか、観光拠点情報・交流施設の立地要件の撤廃など補助事業の使い勝手の向上を要望する。

群馬県の提案では、大沢知事が「障害者の自立のための環境整備の推進」を説明した。障害者の職業教育推進のための専任教員の適正配置、障害者を雇用する中小企業への財政支援の拡充などを国へ求める。

このほか、電子機器の破壊や誤作動を誘発する電磁パルス（EMP）攻撃への対応など国民保護事案への対策推進（東京都）、農地集積・集約化への支援（栃木県）などが承認された。（石井宏昌）

## 静岡）特別支援学校生、大学を一日体験 大学の学食で昼ごはんを注文する。普段は弁当なので新鮮だという＝焼津市本中根の静岡福祉大

朝日新聞 2017年10月19日

県立藤枝特別支援学校焼津分校の高等部の3年生13人が18日、静岡福祉大（焼津市本中根）で一日大学生体験をした。両校の連携協定に基づく交流事業の一環。今年で5年目。



焼津分校の生徒は軽度の知的障害があり、卒業後は就職する子がほとんど。この日は学食で大学生と一緒に昼食を食べたり、体育館でパラリンピックの競技種目にもなった「ボッチャ」を楽しんだりした。

焼津分校の松本進教諭は「うちの生徒は、同世代や幼児との交流はあるが、年上の人と接する機会が少ない。一日大学生は、社会生活の入り口として得がたい体験だ」と話す。

静岡福祉大の鈴木政史講師は「障害者とかかわる機会が少ないまま入学してきた学生にとっても、発見と出会いがある」と話す。生徒らの施設見学に付き添った大学3年の石田夢奈さん（20）は「将来、障害者支援の仕事につきたい。どんな生活をし、どんなことに興味を持っているのか彼らから学びたい」と話した。

## 障害者福祉を支える力に 天満さん慈善コンサート

東京新聞 2017年10月19日

世界的なバイオリニスト天満敦子さんのチャリティーコンサートが11月1日、秩父市の秩父ミュージックパーク音楽堂で開かれる。コンサートの収益金は全額、障害者福祉に充てられる。

天満さんは東京芸術大大学院を修了。大学在学中にロン・ティボー国際コンクール特別

銀賞を受賞し、欧州などで幅広く活躍している。東日本大震災後は被災地での公演も続けている。

コンサートは、障害がある人を支援する市民団体「秩父手をつなぐ育成会」が毎年この時期に開催し、今回で18回目。これまでも入場料の収益で地域の福祉施設に送迎バスなどを寄贈してきた。

曲目はサンサーンスの「白鳥」、カッチーニの「アベマリア」、民謡の「五木の子守唄」などを予定している。ピアノ伴奏は勝呂真也さん。

午後6時開場、6時半開演。料金は全席自由で3000円。問い合わせは秩父手をつなぐ育成会の原島さん＝電080（1348）2521＝へ。（出来田敬司）

## 障害者スポーツ、フライングディスク 猿払の木上さん全国へ 特訓続け「勝ちにいく」

北海道新聞 2017年10月19日



### 全国大会に向け練習に励む木上さん

【猿払】鬼志別の無職木上宗秋（きがみむねあき）さん（58）が、28～30日に愛媛県で開催される第17回全国障害者スポーツ大会「愛顔つなぐえひめ大会」に、フライングディスク競技の北海道代表選手として出場する。木上さんは「出場するからには勝ちたい」と闘志を燃やしている。

木上さんは、昨年9月の札幌での北海道障害者フライングディスク大会で、距離を競うディスタンスと円形ゴールを狙うアキュラシーの2種目の座位男子部門に出場。ディスタンスで22メートル70センチ、アキュラシーで10投中、10回標的を通過し、それぞれ1位となり、全国障害者スポーツ大会のフライングディスク2種目の座位男子部門に北海道代表として派遣されることになった。

## 障害者福祉の現場を紹介 就活学生らを対象 横須賀でイベント

東京新聞 2017年10月19日

5月の「障害福祉カフェ」で交流する参加者＝横須賀市障害関係施設協議会提供

障害福祉施設の工作内容や働き方を就活中の学生らに紹介する「よこすか障害福祉カフェ二〇一七秋」が二十一日午前十一時～午後三時半、横須賀市平成町の県立保健福祉大で開かれる。

会場には、主催の市障害関係施設協議会に加盟する十法人がブースを設置。現役職員が仕事の説明をし、就職相談に応じる。施設ごとの特徴が分かるDVDの上映や、障害者と一緒に、パンを用いたアクセサリーを作るワークショップなどもある。

午後一時半からは、市内の障害福祉の現場で働いた経験がある岸川学・同大助教の司会で公開討論を実施。学生や障害者の家族、職員らが仕事について語り合う。

イベントは二年前から毎年春、秋の二回実施し、今回で六回目。市内の障害福祉施設では人手不足が続き、人材確保が課題になっている。同協議会の担当者は「若い世代や業界に関心のある人たちにぜひ参加してほしい」と呼び掛けている。

参加無料で申し込み不要。問い合わせは社会福祉法人みなと舎＝電046（855）3911＝へ。（福田真悟）



みんなほっこり、自閉症の男性が描く世界 電話帳表紙に

朝日新聞 2017年10月18日



福岡向けのタウンページに採用された数字を描いた作品  
= 9月26日、北九州市小倉北区、金子淳撮影



北九州向けのタウンページに採用されたロボットを描いた作品の一部=9月26日、北九州市小倉北区、金子淳撮影

自  
閉  
症  
の  
伊  
藤  
彬

さん(23)=北九州市小倉北区=の作品が人気を集め、福岡市と北九州市などで今年配られる職業別電話帳「タウンページ」の表紙に採用された。見たものや感じた



ものを独特のタッチで表現した作品は、シャツや文具にも使われている。

福岡向けの作品は1から88までの数字がカラフルに、北九州向けは色々な形のロボットがぎっしりとひしめくように描かれ



ている。福岡は4地区、北九州は2地区に分けて発行され、それぞれ作品の一部が表紙に使われる。

伊藤さんは2歳で自閉症と診断された。空中や地面に向かって、にこにこしながら指を動かす伊藤さんを見て、母の典子さん(45)は「何しよるんかな」と不思議だった。5歳のころ、保育士がペンと紙を渡すと絵を描き始めた。描いている時は、普段より落ち着いて席に座る。

小学3年生で企業主催の絵画コンクールで1位に。特別支援学校を卒業後、18歳で障害福祉などのサービスを手がけるNPOの列島会創造館クリエイティブハウス(小倉北区)に就職した。織物などを担当していたが、絵が得意だと知った職員の勧めで創造館の工房でも描き始め、作品はTシャツにプリントして商品化された。

人や動物を描くときは足から。ペンや絵の具で、迷いなく描いていく。数字と決めたら数字、ロボットと決めたらロボットを、小さくぎっしり描く。

去年は、障害のある人たちがサッカーをテーマに描いた作品を集めた「パラリンアート・サッカーアートコンテスト」で入賞。創造館では伊藤さんの絵をデザインした一筆箋(せん)などの販売も始めた。職員は「よく見ると一つひとつの表情が違い、ほっこりして元気をもらえる」と話す。

9月26日、創造館でNTT職員から伊藤さんに感謝状が手渡された。壇上で拍手を浴びると照れたような笑顔を見せた。福岡・北九州のタウンページ編集長、吉原裕枝さんは「地域と暮らしの情報誌として、受け取った人みんなが、温かさを感じられる絵を探していた」と話す。伊藤さんの作品が表紙に採用されたタウンページ180万部は、両市などの世帯に配られた。

典子さんは「あっくんの人間性がにじみ出ている絵。将来が不安だった時期もあったが、認めてもらってうれしい」と話した。(新屋絵理)

#### 池袋パルコに接客ロボット 実証実験始まる



NHK ニュース 2017年10月19日  
人手不足の深刻化でロボットの活用を模索する動きが広がる中、東京・池袋のファッションビルで、接客などを行うロボットの実証実験が始まりました。

東京・池袋のファッションビル、「パルコ」に18日から人と会話したり、店内を自律的に移動したりする、高さおよそ90センチのロボットが登場しました。

このロボットはAI=人工知能を搭載し、

人と会話ができるほか、周囲を認識するセンサーで人や物を避けて自律的に移動することができ、接客などへの活用が期待されています。

ロボットは「メガネがほしい」と話しかけられると、音声で答えるだけでなく、客と一緒に移動しながら店内の混み具合やより短い道順を判断しつつ、目的の売り場へ案内していました。

ロボットの案内を受けた20代の男性客は「ロボットに案内されるなんて近未来のようです。店員に声を掛けにくい時でも気軽に聞けて便利です」と話していました。

また、このロボットは商品に取り付けられた電子タグを読み取ることで在庫を確認する作業もこなし、従業員の負担軽減につながると期待されています。

会社では来月中旬まで実験を行い、買い物客の反応や安全性を検証することになっています。パルコのグループICT戦略室の伊藤健さんは「人手不足の対策に加え、多言語での接客などロボットが得意な分野を生かす形での導入を目指したい」と話していました。

### がんゲノム病院、12カ所指定 遺伝子調べ治療法選択 共同通信 2017年10月18日

厚生労働省は18日、がん患者のゲノム（全遺伝情報）を調べて適した治療法を選ぶ最先端の「がんゲノム医療」を提供する病院の指定要件を大筋で決めた。近く中心的な役割を担う「中核拠点病院」の公募を開始し、条件に合う12カ所程度を来年3月までに指定する。各中核病院は、直接患者を診る数カ所の連携病院と協力することになっており、来年度から全国で治療が受けられるようになる。従来のがん治療は肺や胃、大腸などの臓器別に施されているが、ゲノム医療はがん細胞に生じた遺伝子の変異を検査で特定し、その変異に合った薬を投与する。これまでより効果的で副作用も少ないと期待されている。

### 新築の大規模マンションに保育施設を 国が通知 朝日新聞 2017年10月19日

厚生労働省と国土交通省は18日、開発事業者が大規模マンションを建設する際に保育施設の設置を促すよう求める通知を、都道府県と政令指定都市に出した。都市部で子育て世帯が新築マンションに移り住み、待機児童が増加していることを受けた対策だ。通知は、6月に政府が公表した新たな待機児童解消プランに盛り込まれた「大規模マンションでの保育園の設置促進」に基づく。容積率を緩和する特例措置によって大規模マンションが建設される際に、ニーズが増えて保育施設が必要になると判断した場合、開発事業者に設置を要請するよう各自治体に求めている。また、住民の子どもたちが成長すると保育施設のニーズがなくなる懸念もあるため、開発事業者には学童保育や高齢者の福祉施設などに変更できることも都市計画に盛り込むよう求めている。（西村圭史）

### 実地に学ぶ「オオサカ学習帳」人気 「まいど」「なんでやねん」…なにわ言葉を収録

産経新聞 2017年10月19日

「あめちゃん食べる?」「おおきに」ー。外国人観光客に大阪弁に親しんでもらおうと、大阪市のデザイン会社「リンクコーポレーション」がつくった「オオサカ学習帳」が話題を呼んでいる。使う場面をイラストで示し、英語と日本語で解説。考案者は「大阪弁を『お土産』として広めたい」と意気込む。

「まいど」「ぼちぼちでんな」といった日常会話で使いやすい言葉を掲載した。「なんでやねん」のページには漫才師のイラストを入れ「冗談に対して突っ込むときによく使われる」などと説明。平仮名書きを練習できるページもある。

昨年、大阪市の繁華街・ミナミの商店街で3千冊を無料配布すると、およそ半年で全てはけた。増刷を望む声を受け、土産物店などで販売することに。300円という手頃な値段と面白さから、修学旅行生ら日本人にも人気という。



今春には、片仮名の練習も兼ねた食い倒れの街・大阪の食文化を伝える続編が登場。「タコヤキ」「クシカツ」など15種類の食べ物のほか、うどんやおでんの汁に使われる「オオサカノダシ」を紹介する内容で、ミナミに実在する店や店主を挿絵にした。

考案したリンクコーポレーションの牧香代子さん（41）は「学習帳を手には街歩きを楽しみ、地域性豊かな文化に触れてほしい」と話している。問い合わせは同社（（電）06・4396・4488）。

大阪弁と大阪の食文化が学べる「オオサカ学習帳」

